

えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ⑦⑧

今回紹介する資料は、雑誌「少年倶楽部」の付録である。同誌は1914（大正3）年に大日本雄弁会現正3）年に大日本雄弁会現講談社）が創刊した雑誌であり、少年たちはその付録を楽しみにした。37（昭和12）年に日中戦争が始まると、付録も戦争を反映したものが多くなっていた。

本資料は40（昭和15）年1月1日発行号の付録で両面刷りとなっている。「帝国軍艦大画報」から見てみよう。長門・山城・金剛・伊勢などの戦艦、妙高・高雄などの巡洋艦、赤城・加賀などの航空母艦、そのほかの砲兵部隊、給水・衛

軍艦や兵器多色で描く

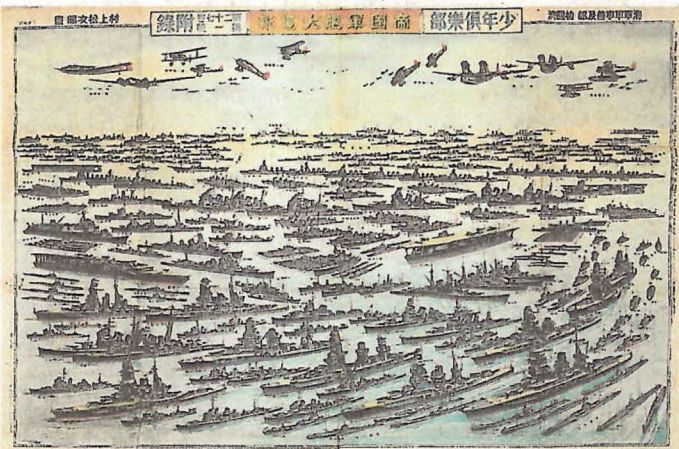
ればならなかった。

私たちは戦時資料を見るとき、当時の人々に共感しながらも、現在の視点で比較することが大切ではないだろうか。戦時資料が発するメッセージをどうすれば分かりやすく伝えることができるか。戦後75年の今年、展示を行う者として、改めて自問したい。

（専門学芸員・平井誠）

△月2回掲載します▽

雑誌「少年倶楽部」の付録



1940（昭和15）年1月1日発行号「少年倶楽部」の付録「帝国軍艦大画報」
—県歴史文化博物館所蔵